

**「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」をもとに、  
新たなスタートを！**

**<基本法施行への期待と提案（JDWG 2023年9月）>を發表します。**

一般社団法人 日本認知症本人ワーキンググループ（JDWG）

- 2023年6月14日に成立した「共生社会の実現を推進するための認知症基本法（以下、基本法）」は、認知症とともに今を生きている私たち本人と、全ての国民の今と未来にとって極めて重要な法律です。
- 基本法では、「全ての認知症の人が、基本的人権を享有する個人」として明記されました。認知症になってからも、どんな年代や診断名、状態であっても、また暮らす地域や場がどこであっても、個性ある一人の人として、尊厳と希望をもって自分らしくあたりまえに暮らしていけることが、法律でしっかりと守られることになりました。
- 基本法成立の背景には、認知症になると基本的人権が守られない中で、つらい日々と人生を送らざるを得ない、理不尽で厳しい現状があります。様々な施策や取組みを、散発的に強化するだけでは、私たちの生きにくさは解消できません。基本法成立を機に、国及び自治体、専門職、企業、そして私たち本人を含む全ての国民が、「共生社会の実現」という同じ目的に向かって、ともに今、新たにスタートする時です。
- 基本法成立にいたる長い経過の中で、JDWGは認知症本人の立場から、繰り返し提案を続けてきました (<http://www.jdwg.org/>)。その提案の多くが基本法に反映された、この本人参画のプロセスが重要です。今後全ての施策が、本人の参画で進められ、本人そして次に続く人たちに真に役立つ取組みに発展していくことを私たちは願っています。
- JDWGでは、基本法成立間もない2023年6～8月に、基本法を本人なりに読み、考え、声を寄せ合いました。それらをまとめ以下の「基本法施行への期待と提案」を發表します。

「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」をもとに、新たなスタートを！

## 基本法施行への期待と提案（JDWG 2023年9月）

～いつでも、どこでも自分らしく暮らし続けられる共生社会を、私たち本人と一緒に創ろう～

<b>1. 基本法が国民に知られ、認知症とともに前向きに生きていく希望や勇気を持てる人が、一人でも多く増えることを期待</b>
<b>【提案】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 基本法成立の経緯も含めた基本法「わかりやすい版」を本人参画で創り、本人を含む全ての国民に、基本法の浸透を図ろう</li></ul>
<b>2. 基本的人権を持つ個人として、自分自身を保ち、自分らしく暮らし続けられる本人が、一人でも多く増えることを期待</b>
<b>【提案】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 本人を含めた国民が、古い常識（認知症観）の殻を破り、基本的人権に根差した希望のある新しい常識（認知症観）をあたりまえのこととしてリアルに学ぼう。</li><li>・ 認知症に備えられるよう、前向きに暮らす本人との対話や交流の機会を、身近な地域でつくろう</li><li>・ 認知症になったできるだけ早い時期に、前向きに暮らす本人と出会い、つながり、社会参加を続けながら、自分らしく暮らし続けていく流れをつくろう</li></ul> <p>* 本人視点にたって、啓発、ピアサポート、本人ミーティング、社会参加等の取り組みが自然につながる流れをつくろう</p>
<b>3. 本人が本音を表せ、意思表示や自己決定しながら自分らしく暮らし続けられるように、その歩みに継続的にかかわり後押ししてくれる人材がどの地域でも着実に増えることを期待</b>
<b>【提案】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 行政も専門職も職場や地域の人、認知症の症状だけを見ずに、目の前の本人の声をしっかりと聴こう</li><li>・ よりよい暮らしと地域を一緒につくっていく創意工夫を積み上げよう</li><li>・ 本人とともに歩む人をそれぞれの地域の中で増やしていこう</li></ul>
<b>4. 認知症があってもなくても、「今暮らしている自治体で、希望をもって自分らしく暮らし続けていける」と思える人たちが、年々着実に増えることを期待</b>
<b>【提案】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 自治体が本人とともに、施策や用語・表現等を見直そう</li><li>・ 自分らしく暮らし続けていけるように、縦割りを超えて多様な領域の人とその地域の文化やあるものを活かしながら、わがまちならではの中長期の計画を、つくっていこう</li><li>・ それにより、本人と住民等が地域共生を実感できるようになったかを、毎年、確認（評価）しながら、着実な改善を一緒に進めていこう</li></ul>

※JDWG 会員の声を集めた「基本法試行への期待と提案 詳細」（次ページ）をご参照下さい。

「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」をもとに、新たなスタートを！

<基本法施行への期待と提案 詳細（JDWG 2023年9月）>

～いつでも、どこでも自分らしく暮らし続けられる共生社会を、私たち本人と一緒に創ろう～

JDWG 会員から寄せられた声の集約：●基本法への期待、●提案

基本法施行への期待	わたしたち本人による提案
1. 基本法が国民に知られ、認知症とともに前向きに生きていく希望や勇気を持つ人が、一人でも多く増えることを期待	●基本法成立の経緯も含めた基本法「わかりやすい版」を本人参画で創り、本人を含む全ての国民に、基本法の浸透を図ろう
<ul style="list-style-type: none"><li>●こうした法律ができた！ そのことで希望や勇気が湧いた</li><li>●（基本法ができて）自信を持つ</li><li>●本人が生きがいや希望を持って自立した生活を送れるための基本法成立に、自分たち本人と一緒に参加していることが誇らしい。課題はあるが前に進みたい</li><li>●声をあげてきてよかった、うれしい</li><li>●他の本人たちに、諦めずにやっていこうと言ってきたが、それを言いやすくなった</li><li>●大事な内容が書いてあるが、わかりにくい</li><li>●読むのが、一苦勞。みんなが読めるようなわかりやすいものをつくってほしい</li><li>●難しくてよくわからないけど、みんな、これからも、がんばろう</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>●周りの人は、（基本法を）誰も知らない。 実現には、まずはたくさんの人に知ってもらう必要がある</li><li>●わかりやすく、伝わりやすくしないと、市町村は動かない、地域包括も地域の人も動かない</li><li>●基本法を一部の人だけが知って、一部で進めるのではなく、みんなに知られるようにいろんな場面で伝える</li><li>●認知症の本人が読みやすいものがあれば、他の人もきっと読みやすい</li><li>●法文を音声で聞けるように。わかりやすい解説付きで</li><li>●子供にも知ってほしい。子供も読めるように</li><li>●若い人たちも基本法知ると認知症のイメージが変わる</li><li>●わかりやすい版を本人が入って一緒に作れたらいい</li><li>●堅苦しいことばかりだ。もっと楽しく伝える必要がある</li></ul>

<p>2. 基本的人権を持つ個人として、自分自身を保ち、自分らしく暮らし続けられる本人が、一人でも多く増えることを期待</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本人を含めた国民が、古い常識(認知症観)の殻を破り、基本的人権に根差した希望のある新しい常識(認知症観)をあたりまえのこととしてリアルに学ぼう。</li> <li>・ 認知症に備えられるよう、前向きに暮らす本人との対話や交流の機会を、身近な地域でつくろう</li> <li>・ 認知症になっただけ早い時期に、前向きに暮らす本人と出会い、つながり、社会参加を続けながら、自分らしく暮らし続けていく流れをつくろう</li> </ul> <p><b>*本人視点にたって、啓発、ピアサポート、本人ミーティング、社会参加等の取組みが自然につながる流れをつくろう</b></p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 診断されてかなり経ちますが、私自身は変わってないです。基本法を通じて、基本的人権を一人ひとりが持っていることが、あたりまえになってほしい</li> <li>● 忘れることは増えているけど、普通に暮らせることを大事にしてほしい</li> <li>● できなくなったこともたくさんありますが、自分は自分らしくいたいという気持ちに自分はなった</li> <li>● (基本法を通じて)本人自身ができるだけ早く意識を変えていけるようになってほしい</li> <li>● 家族自身が認知症の偏見や「自分が介護してあげなければ」という意識を変えていくことがとても重要。そのためには、家族自身はもちろんだが、基本法を通じて本人が尊厳を持って自立して生きる個人としての理解を深め、社会の家族についての意識、今の現実と合わない社会の家族への過剰な要求(意識)がかわっていくことを期待したい</li> <li>● 認知症があっても、一人で暮らし続けている。基本法を通じて、それがあたりまえになってほしい</li> <li>● 認知症は「自分が好きなことはなにか、自分らしく生きるチャンス」でもあるのかなと思います。いろんな機会を与えてもらっている感じがします</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 認知症についての偏見や差別は、本当に根強い。基本法が絵に描いた餅に終わらないためには、「認知症の一人ひとりが人権をもっている」という基本法の根本をしっかりと伝えていくことが大切</li> <li>● (基本的人権について)一度や二度、聞いただけでは本当の理解にならない。本人と一緒に過ごし、話しあいながら人権の大切さを実感できるようなやり方に変えていく必要がある</li> <li>● これまでも大綱などで尊厳や希望が掲げられてきたが表面的だった。基本法で基本的人権が示された意義は大きい。国、自治体、地域の人たちの足並みがそろうように「人権を守る」ことを、対話を通じて根付くように</li> <li>● 基本的人権を難しい用語や理念を伝えるのではなく、本人たち一人ひとりが自分なりの人生を生きてきて、今も生きようとしている生きざまを通じて、具体的に、わかりやすく伝えていくことが必要</li> <li>● 認知症として分けられるのではなく、人と人としてあたりまえに楽しく元気になる交流の機会を増やしてほしい</li> <li>● 「あの人は認知症だから・・・という気持ちにならないで普通に付き合っていて下さい」ということを言いたい。交流の場をつくることを一番に</li> <li>● 認知症になる前から、地域とのつながり作りが大切</li> <li>● 自分の中にも認知症についての偏見があった。本人が先輩に会えると変わる</li> <li>● 診断直後に本人が先輩に出会い、意識を早く変えられる機会をどのまちでも</li> <li>● 家族の意識や関わりも重要。家族の認識が変わると、本人も暮らしやすくなる。家族が認知症についてだけでなく、本人があたりまえに生きていくこと、本人なりに考えていることについて理解を深められるように</li> </ul>

<p>3. 本人が本音を表せ、意思表示や自己決定しながら自分らしく暮らし続けられるように、その歩みに継続的にかかわり後押ししてくれる人材がどの地域でも着実に増えることを期待</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 行政も専門職も職場や地域の人も、認知症の症状だけを見ずに、目の前の本人の声をしっかりと聴こう</li> <li>・ よりよい暮らしと地域を一緒につくっていく創意工夫を積み上げよう</li> <li>・ 本人とともに歩む人をそれぞれの地域の中で増やしていこう</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 困ったことは助けてとオープンに言える社会になっていくことを期待しています</li> <li>● 一人ひとり素朴な願いがある(働きたい、友達に会いたい、自分で好きな物を買に行きたい、旅行に行きたい、温泉行きたい、美味しい物を食べたい、レストランに行きたい、気晴らしに外に行きたい、自分なりの楽しみ・趣味・娯楽を続けたい等)。無理と決めつけしないで、どんな状態でも、素朴な願いを言えるようになってほしい</li> <li>● 自分の考えや思いを聞いてもらえず、自由や希望を制限された生活を強いられている本人がたくさんいる。家族や支援者に委ねられてしまうのではなく、基本法によって、自分の考えや思いを表すのが難しい状況に置かれた時に助けてくれる人が現れてほしい</li> <li>● 最初の頃から、その後もいろんなことが起きる。自分の思いや願いを聴いてくれる味方の人がぜったいに必要。出来たらずっと同じ人でいてくれると安心。同じ人が無理なら、ちゃんと引きついでくれる人がいると心強い</li> <li>● 自分は地域でそういう人がいてくれてラッキーだった。そうした人が、もっと地域で増えてほしい、地域で増やしてほしい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 偏見がなくなり障壁を取り除くためには、本人が声をあげていくことが必要。そのためには本人が声をだしやすい環境をつくること。県や市など行政の人たちや専門職のスキルアップが必須</li> <li>● 行政や専門職が、住民や企業のモデルに</li> <li>● 認知症の人が人生の岐路に立たされる場面がある。そうした際に本人が声を出せる、意向が大切にされることを守ってくれる専門職を増やしていくこと</li> <li>● 就労支援やチームオレンジなど、専門職も職場や地域の人も、「認知症」だけを見ずに本人の声をしっかりと聴きながら本人と話し合いながら最適な道を一緒に見つける積上げを</li> <li>● それを推進していく人(養成)が必要</li> </ul>

<p>4. 認知症があってもなくても、「今暮らしている自治体で、希望をもって自分らしく暮らし続けていける」と思える人たちが、年々着実に増えることを期待</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治体が本人とともに、施策や用語・表現等を見直そう</li> <li>・自分らしく暮らし続けていけるように、縦割りを超えて多様な領域の人とその地域の文化やあるものを活かしながら、わがまちならではの中長期の計画を、つくっていこう</li> <li>・それにより、本人と住民等が地域共生を実感できるようになったかを、毎年、確認(評価)しながら、着実な改善を一緒に進めていこう</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>●基本法が実現したらすばらしいと思いますが、住んでいる自治体で具体的に進むことを期待</li> <li>●努力義務を活かして、自治体ごとに、その地域の本人や住んでいる人たち、地域にあるものを大切に活かして取組んでほしい</li> <li>●既存の施策やその中の用語・表現等が、古い認知症観のままのものがあ、実際の本人の暮らしや支援をよりよくしていくためのブレーキになっている。基本法成立を機に、それらを本人参画・本人視点にたって見直し、一つずつ改善してほしい</li> <li>●こどもが減っている、年金がどうなるかなど、世の中全体のことを私たちも心配している。基本法をもとに、認知症になってからも地域でともに元気で暮らせる社会をいっしょにつくることで、孫の代もそれからずっと幸せに暮らせる社会に近づいていくと思います</li> <li>●若い人たちが大切。基本法が若い人たちにも知られて、老いること、認知症になることの不安がなくなり、ともに未来に希望が持てる、支え合って一緒に楽しく生きていける、そんな地域になっていくことを期待している</li> <li>●課題がたくさんだからこそ、その場しのぎや単発でなく、基本法をもとに息長く着実に進んでいくことを期待したい</li> <li>●今もはびこる偏見や差別の中で毎日、不安や息苦しさ自分らしく生きていきたい気持ちと背中合わせで暮らしている。基本法が偏見の解消につながり、当事者や家族が希望を見つけながら幸せを実感できる社会に近づいてほしい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●新しいことの前には、現状の施策やその中の用語・表現等を、本人参画・本人視点で見直すことが必要</li> <li>●暮らしていくためには、職場、地域、相談窓口・医療・福祉・介護サービスなど、いろんな場で障壁をなくしていくバリアフリーが必要、そのためには、本人の声をもとに、どんな障壁があるのか具体的に調べていくことを職場や地域で着実に進めていくこと</li> <li>●認知症だけを見て取組んでいても、暮らしていけない。国や自治体の上からの一律の取組みや縦割りでなく、それぞれの地域で、人と人とのつながり、出会いと「共に」の楽しい体験を積上げていくこと</li> <li>●わたしたち本人が認知症になってからも、地域の中で楽しく生き生き暮らしている日々の「小さな共生」の実際を増やしていくことが、地域全体の共生につながっていくと思います</li> <li>●大きなテーマがずらりとならんでいるが、わがまちで具体的にどう進めるか、本人の声をもとに優先順位をつけながら、中長期的に着実に前進していくこと</li> <li>●実行している市町村がきちんと社会的に評価される工夫を(表彰、ニュースで等)。価値が高まる支援を</li> <li>●自治体の進捗を本人が評価し、見直し改善を一緒に</li> <li>●一律ではなく、前向きに進もうとする自治体が自由に自主的に動けることを後押しする国計画を(予算も)</li> </ul>